

令和7年度大谷場中学校だより



おおやば

第2号

令和7年4月30日(水)発行

学校教育目標

「より高く、より広く、より深く、より強く」

さいたま市立大谷場中学校

〒336-0016 さいたま市南区大谷場2-13-54

TEL : 048-882-9962 FAX : 048-811-1336

WEB : <https://oyaba-j@saitama-city.ed.jp/>

MAIL : oyaba-j@saitama-city.ed.jp

学校WEBページ
QRコード



「 時を守り 場を清め 礼を正す 」

校長 八坂和典

木々の新緑が美しく輝く季節となりました。入学式・始業式から約3週間がたちましたが、大きな環境の変化に緊張感や戸惑いを見せていた1年生も、学校生活にとけ込み、元気に生活しています。また、2、3年生も新しい学級の雰囲気にも慣れ、学年が進んだ落ち着きさえ感じられ、おかげ様で大谷場中学校は順調なスタートを切ることができました。

今年度、朝の登校時に正門前に立っていると新3年生の学級生活委員の皆さんが揃って、あいさつ運動を行ってくれました。(水曜日は生徒会も行ってくれています。) 教員からの指示ではなく、自分たちの意思で、2週間ほどあいさつ運動に取り組んでくれました。いつものあいさつ運動とは違い、活があり、心なしかあいさつをされる生徒の表情も明るく、大きな声であいさつを返してくれる生徒もたくさんおり、すばらしい年度のスタートとなりました。「どうすれば自分たちの学校が素晴らしい学校となるのか」自ら気づき、考え、行動する姿のお手本となりました。また、相手に気づき、感じ、そして爽やかなあいさつをすることで、自分や相手の心を豊かにします。笑顔で「おはよう」、笑顔で「さようなら」、このような当たり前のことが、誰にでもできる学校となるように皆で協力し、希望溢れる学校を作っていきます。



東小、学級生活委員、生徒会合同のあいさつ運動の様子

さて、「時を守り 場を清め 礼を正す」これは、哲学者 森信三さんの言葉です。この言葉は、学校はもとより、企業理念や社会人教育など多方面で活用されており、多く人が耳にしたことのある言葉だと思います。

「時を守り」とは、「遅刻をしない、期日を守る」ということです。定刻までには準備を整え、きたるべき時に備えて心を静めて開始を待つということです。また、決められた期日までに求められた対応を行うということでもあります。時を守る先には、必ず相手がいます。自らが時を守ることで、相手を尊重することにもなります。

「場を清め」とは、「整理整頓をし、掃除をほどこす」ということです。掃除をすることは「5K」として語られることがあります。① 気づく人にし、それによって相手からの信用や信頼を増していく②心を磨く ③謙虚になれる ④感動する心を育む ⑤感謝の心が芽生える、単に身の回りの整理整頓や掃除であつても、他を敬い、奉仕の心につながります。

「礼を正す」とは、「挨拶をする、返事をする」ということです。「挨拶」という言葉には「心を開いて、相手に迫る」という意味があります。「挨拶」をすることで人間関係は良好に保たれます。そして、その「挨拶」は率先して他人よりも先に、相手に聞こえるような大きな声でできると相手が気持ちよく受け取ってくれます。また、呼ばれたら「はい」と答え、お世話になったら「ありがとうございます」と言葉を伝えることも大切です。

この3つの言葉に、通じるものは、相手を思いやる・相手を敬う気持ちです。人は一人で生きていけません。誰もが誰かに支えられ、誰もが誰かを支えています。だからこそ、3つの言葉を「感謝」の気持ちをもって行うことが大切となります。保護者・地域の皆様、大谷場中でも「時を守り 場を清め 礼を正す」この3つの言葉を大切に生活していきますので、今後も温かいご支援をよろしくお願いします。